

10. モーリシャス

1) 政治、経済、民政の動向

(1) 概 要

- ①国名：モーリシャス(Mauritius)
- ②独立：1968年3月12日（旧宗主国：イギリス）
- ③首都：ポートルイス（Port Louis 人口約15万人）
- ④面積：2,045平方キロメートル（大阪府にほぼ等しい）
- ⑤人口：104.8万人（1988年、世銀アトラス）
（人口密度：512人／平方キロメートル）
（人口増加率：1.0%、1980-88年）
- ⑥人種：インド系68.3%、クレオール系28.5%、中国系3.2%
- ⑦宗教：ヒンズー教50%、キリスト教31%、イスラム教16%、仏教3%
- ⑧言語：英語（公用語）、仏語、クレオール語（仏語の変形したもの）
- ⑨経済指標：
 - (イ) 国民総生産(GNP) 18.9億ドル（1988年）（世銀アトラス）
 - (ロ) 一人当たりGNP1,810ドル（1988年）（同上）
 - (ハ) 同成長率5.1%（1980～88年）（同上）
 - (ニ) 通貨単位モーリシャス・ルピー（1米ドル＝13.438ルピー）（1988年世銀資料）
 - (ホ) 財政規模歳入7,120万ルピー（1988/89会計年度）
歳出7,572 〃 （IMF資料）
- ⑩労働人口：446,000人（1989年1月）（IMF資料）
- ⑪地理・気候：

- (イ) 地理：モーリシャスは、マダガスカルの東約800キロメートル（南緯20度、東経57度）のインド洋上に位置する島国で、過去2回の火山活動によって形成された深海より突出した火山島であり、火山特有の地質が大部分を占めている。火山活動は10万年ほど前に終わり、島内のいたるところに死火山のクレーターがみられる。島の中央部は、海拔約600mの比較的平坦な高原地帯で、島の周囲はPort Louis港などの一部を除いて珊瑚礁で囲まれている。モーリシャス島の56%が農耕地、38%が森林・荒野、残りの6%が居住・産業地区となっている。また、モーリシャス島の他にロドリゲス諸島を領有している。
- (ロ) 気候：海洋性気候で、一年を通じて南西風が吹く。夏季（10月～3月）は、熱帯性気候で、平均気温が29℃、冬季（4月～9月）は、亜熱帯性気候で、平均気温は21℃となる。夏季には、サイクロン（台風）が襲来する。年間降水量は、西部で約1,000mm、東部で2,000mm程度。中部高地（標高600m）では、4,000mmに達する。

(2) 略 史

10世紀アラブ人来島。

担当：池田 俊彌

1507年頃ポルトガル人来島。

1598年オランダ人上陸・占領。島名をマウリティウス島（モーリシアス島）と命名。

1719年オランダは、マウリティウス島の植民地政策を放棄。

1715年フランス人上陸・占領。島名をフランス島に変更。

1735年マエ・ド・ラ・ブルドンネーがマスカリン諸島総督として着任。以後植民地政策を強化。

1810年激戦の末、イギリス軍がフランス島を占領。

1814年パリ条約により正式にイギリス領となる。島名をオランダ時代のモーリシアス（マウリティウス）に変更。

1959年英連邦自治領となる。

1968年3月英連邦の一つとして独立（アフリカで40番目の独立国）。

1969年2月労働党を中心に挙国一致政権成立（首相：ラングーラム）。

1972年5月挙国一致体制崩れる。PMSD（モーリシアス社会民主党）の4閣僚が辞任。

1982年6月総選挙で労働党敗北。MMM（モーリシアス戦闘運動）、PSM（モーリシアス社会党）OPR（ロドリゲス島人民機構）による左翼連合政権成立（首相：ジャグノート）。

1983年3月MMMの分裂。MMMの実質上の指導者ベランジェが蔵相を辞任。ジャグノート首相は、新政党MSM（モーリシアス社会主義運動）を創立。

1983年8月総選挙でMMM敗北。MSM、PMSD、労働党分派（本流は野党）、OPRの保守派連合政権成立（首相：ジャグノート）

1984年1月インド洋委員会に加盟（設立時の加盟国はマダガスカル、セイシェル、モーリシアス。後にコモロ、仏（レユニオン）が加盟。）

1985年12月国会議員の麻薬所持事件。麻薬所持の容疑により与党議員4名がアムステルダム空で逮捕される。

1986年8月労働党党首の入閣。相次ぐ閣僚の辞任や議員の麻薬所持事件の処理をめぐり与党内部の対立が深刻化。事態収集のための内閣改造を実施。野党労働党党首のブーレルが入閣。

1987年8月総選挙で保守派連合が大勝。

1987年9月～11月国際海洋フェスティバル開催。英国、インド、仏、米国、ソ連、日本等13カ国が参加。

(3) 政治制度

①政体 立憲君主制

②元首 英国女王エリザベス2世

③総督 リンガドゥ(Veerasamy Ringadoo)

④首相ジャグノート(Anerood Jugnauth)

モーリシアスは、議員内閣制を採用しており、首相は議会の決定により総督が任命する。首相は閣僚を選定し（総督が任命）、内閣を組織する。議会は70名の議員により構成。議員の任期は5年。

(4) 外 交

現政権は、1983年のIMFによる経済援助が成果をあげたこともあって、西側との経済交流、経済協力を重視する現実主義路線を展開しているが、従来より、インドを初めとする第三世界の非

同名諸国との関係が深く、東側との関係も維持している。

独立して以来一貫して、英国に対し、ディエゴ・ガルシア島（インド洋のほぼ中心にあるチャゴス群島の一部で、英国が50年契約で米国に貸与しており、米国インド洋戦略の要衝となっている。）の返還を要求してきたが、現政権は、近年経済重視の立場から柔軟な姿勢を見せている。

マダガスカル、セイシエル、コモロ、レユニオン（仏）とともにインド洋委員会を結成し、域内協力を重視している。

（5）経 済

①概 観

従来、砂糖産業への依存度が高いモノカルチャー的経済構造のため脆弱性があったが、1971年よりEPZ（輸出加工工業）を導入、優遇税措置等により、海外からの資本の導入を図ってきた結果EPZの総輸出額は、1985年に砂糖を抜いて輸出の第一位となり、貿易収支も黒字を示すまでに成長した。他に重要な産業として美しい海浜を利用した観光や茶産業がある。

②主要産業

（イ）砂糖産業

EPZ（輸出加工工業）地区の順調な成長によって、その地位は相対的に低下しつつあるが、依然としてモーリシャス経済に占める砂糖産業の比重は高く、1988年度においてGNPの12%、労働力の18%及び輸出額の32%を占め、全耕地の88%が砂糖きび畑である。88年度の生産量は634,200トンで、主な輸出先はEC向けの505,000トン（ロメ協定による割当量）及び米国への14,900トンであるいずれも国際市場価格より高値で買い取られている。

（ロ）E P Z（輸出関連加工工業）

EPZは、砂糖依存のモノカルチャー経済から脱却するために、1971年より開始された制度で、優遇税措置等により、海外からの資本進出を促進しようという産業振興政策である。進出企業数は、1971年の10社から1988年の591社に増加している。輸出額も1971年の3,283百万ルピーから1988年には8,716百万ルピー（全輸出額の62%）に拡大し、砂糖を抜いて輸出額の第一位を占めている。

EPZの主要業種は繊維加工業、宝石加工業、鮎缶詰工業で、他にももちや製造、時計組立、船舶モデル製造、皮製品加工等多様な製品を生産する。

（ハ）観光業

観光は、砂糖、EPZに次いで第三位の産業であり、1988年の海外からの観光客数は、240,000人で対前年比約15.6%の伸びを示し、年間の外貨獲得額は2,374百万ルピーであった。

（ニ）茶産業

茶は砂糖に次ぐ輸出農産物で、1988年の生産量は36.2千トンとなっており、総輸出額の約3%を占めている。

（6）我が国との関係

我が国はモーリシャスを独立と同時に（1968年3月12日）承認し、在マダガスカル大使がモーリシャス大使を兼任し、モーリシャス側は在オーストラリア大使が日本大使を兼任している。また、両国はそれぞれの国に名誉総領事をおいている。

モーリシャスは親日国であり、ラングーラム前首相（後に総督）他多数の政府要人が毎年訪日している。

首都ポートルイス港は我が国インド洋水産関係の重要拠点の一つとなっている。

①我が国のモーリシャスに対する経済協力（別添1リスト参照）

②我が国の対モーリシャス貿易

最近5年の我が国の対モーリシャス貿易実績（単位：千ドル）

	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年
輸出	19,769	20,701	34,613	77,273	67,790
輸入	960	229	1,380	1,547	2,769
収支	18,809	20,930	33,233	75,726	65,021

（出所：通関統計資料）

③モーリシャス進出企業：海外漁業、三菱商事、真理名（株）（ホテル）

④在留邦人：59名（1989年10月1日現在）

2) 農林業動向

GDPの10%強を占める農林業はモーリシャスの主要産業であるが、その70-80%はサトウキビ栽培であり、島内全域がサトウキビ畑といっても過言ではない。そのほか、見るべきものとしては輸出用作物としての茶、果物、および花の栽培である。林業には見るべきものはない。

3) 国立農林業研究機関(NARS)の現況

モーリシャスの農業研究の歴史は長く、1893年にはサトウキビを主な対象に研究組織が作られた。サトウキビは1637年にジャワ島からオランダ人によって持込まれた。オランダ、フランス代ってイギリスが統治するようになったが、その時代にはサトウキビの生産は伸びた。サトウキビ農場は残ったフランス人が経営していた。イギリス統治時代には研究の水準は高かった。

(1)Coordinates Activities of Agricultural Services, Ministry of Agriculture, Fisheries and Natural Resources(Head: Dr. M.F. Mosaheb)

概要：技術部門はモーリシャス大学に隣接しているが、独立した研究機関は無い。

作物、土地利用、畜産の3部からなる。

作物部：病理、農芸化学、農学（栽培）、園芸、虫害の5部門（それぞれに5-15名の研究員がいる）。

作物の内、サトウキビ、落花生、ジャガイモ、トウモロコシについてはサトウキビ研究所で扱っている。農業省で扱っているのはタバコ、サツマイモ、キャッサバ、草地、豆類（キマメやソラマメ）、各種野菜である。稲はモーリシャスでは経済的でないので扱っていない。現在、組織再編を実施中である。

①病理部門 (Head: Dr. Jagadish Bucha)

病理部門は、Bacterology, Nematology, Micrology, Seed Pathology, Biotechnologyの5つの

セクションを持っている。野菜、果樹、林木についての病理はやっていない。果樹の病害についてはCIRAD(IRAT)が援助しており、代表がモーリシャスにいる。

モーリシャスの植物病害は全部、外から持込まれたものである。そのため植物防疫が重要であるが、研究の方がおろそかになりがちである。組織再編によって研究と防疫は分離される予定である。研究内容は色々書類には書いてあるものの研究はほとんど行われていない。今研究協力によって得たいものは、病気を判定する技術の修得のために、研究員の研修をする事、判定に必要な機械の導入である。

②虫害部門(Scientific Officer: Dr. S. Permalloo)

Leaf miner: 現在、ジャガイモ、インゲンマメ、ソラマメの最重要害虫であり、新種も現れ、今年は大きな被害をうけた。

Diamond Black Moss: 台湾から導入した天敵を用いて生物防除を確立しようとしているところである。

MitesおよびStaple Fly: 生物防除に成功した。

Coconut Beetle(Oryctes Rhinoceros L.): ウガンダからのウィルスを利用して防除している。

ウリミバエ4種: 柑橘類の被害をうけるが、Bite ApplicationやMale Annihilationで防除している。

③農芸化学部門(Head: Mr. N. Rawanjooloo)

サポート部門である。また、要望があれば民間への分析サービスも行う。土壌、植物、肥料、灌漑水、資料、残渣(農薬などの)の分析を行っている。世界銀行が環境をモニターするプロジェクトを援助しており、その資金で液クロとガスクロ2台を購入した。サトウキビに関する物の分析についてはサトウキビ研究所(MSIRO)がやっている。

④園芸部門(Head: Mr. Iswar Rejkumar)

農業省は輸出向きの付加価値の高い作物を探している。このため、新作物、新品種の導入が主な仕事である。

花キ: ランは地元のホテルやレストラン用に需要が高い。

野菜: 観光業界での需要が高く、また輸出用にもなる新作物、新品種を探している。ここでは人々がだんだん農業から離れていっているので、機械化は重要である。

果樹: ライチは輸出できる。オーストラリアなどから新種を導入して、作期の拡大を図っている。同時に現在は作付け不適の所への拡大も狙っている。パッションフルーツ、パイナップル、パパイヤなども扱っている。

(2)モーリシャス大学農学部(学部長: Dr. D.R.Vencatasamy、任期3年)

大学は75年の歴史がある。スタッフの多くはこの大学の出身である。イギリスの幾つかの大学が学生の成績評価を行っている。科学(Science)、工学(Engeneering)、法律・経営(Law and Management)、社会科学・管理(Social Studies and Management)、農学(Agriculture)の5学部がある。

①研究協力: インドの大学と共同研究、スタッフ交流について共同出資協定を結んでいる。

②研究協力が必要な分野

(イ)バイオケミストリー：重要産物の組織培養技術。

スタッフはDr. Wan Chow Wah (Biochemistry), Mr. D. Puchooa, Miss Joyce Goviudeir。日本との共同研究を強く要望する。現在、組織培養の実験室を作ろうとしているが、まだ完成していない。組織培養では、シダ類、パイナップル、ラン、イチゴなどを対象にして大量増殖、ウィルス抵抗性付与などをやりたいと考えている。一番取り組みたいと考えているのは欧州、日本で高値で取り引きされているアンセリウムである。この花の組織培養は難しいが、これを成功させて増殖できれば重要なモーリシャスの輸出品目となる。このため熱研の協力が得られることを強く希望する。アンセリウムはモーリシャス中央部でシェル（農業部門）が大きな寒冷遮ハウス（5ha以上？）の中で大規模に栽培している。

(ロ)アグロフォレストリー：Dr. A.S. Osman

ロドリゲス島（モーリシャスの北東部にある島）では羊の放牧が盛んで土壌浸食が問題になっている。すぐれた土地利用方法(Silvo-pastury)を作り上げたい。

(ハ)発酵：サトウキビのしぼりかすの利用法。

(ニ)海草栽培：

4) 共同研究への展望

モーリシャスは非常に環境が良く、研究員が派遣された場合には生活にはなんら問題はないものと思われる。協力するならば農業省よりは大学がよいと思われる。大学は研究協力に対してかなり意欲的であった。Mr. Krishan Bheenick(Crop Growth Modeling)、Dr. Kishore Mundil(Agricultural Economy)、Dr. A. Razak Satar(Agricultural Engeneering)、Miss Eslia Aunijau d (Food Science)、Dr. Balraj Rajkomar(Agricultural Management and System)などのスタッフから熱研の共同研究システムに関する熱心な質問を受けた。共同研究に関してのモーリシャスの問題は研究テーマである。主作物はサトウキビであるが、その関連の事は全て民間のサトウキビ研究所で扱っており、熱研が入り込む事は不可能であろう。その中では組織培養などバイオテク関連の研究はテーマとしてはよいと思われる。モーリシャス政府は花キ、果樹などの換金作物の拡大を目指しており、バイオテクはその際大いに助けになるものと思われる。

モーリシャス

主要品目別輸出入実績（１９８８年）

（単位：千ドル）

対 日本

輸 入 品 目	額	輸 出 品 目	額
魚（冷凍）	1,415	ビ デ オ	8,579
切花・花芽	256	自 動 車	3,121
アミノ樹脂・フェノール樹脂	191	テ レ ビ	3,920
魚のフィレ・その他魚肉	123	貨物自動車	4,871
ジャージ・バスト等	110	綿 織 物	4,639

（出所：通関統計資料）

国内総生産に占める各産業別割合（現行市場価格）

（単位：百万モリシアスビー）

	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年
農 林 水 産 業	1,744	2,133	2,573	2,892	3,026
（内砂糖きび）	(1,166)	(1,538)	(1,905)	(2,124)	(2,198)
鉱 業 ・ 採 石	20	21	24	26	29
製 造 業	2,467	3,264	4,300	5,247	5,997
（内製糖業）	(326)	(438)	(605)	(676)	(617)
（ E P Z ）	(1,099)	(1,617)	(2,243)	(2,893)	(3,475)
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道	347	430	476	495	525
建 設 業	733	828	951	1,149	1,358
通商・飲食・ホテル	1,737	2,067	2,618	3,306	3,983
（内商業）	(1,417)	(1,690)	(2,143)	(2,715)	(3,264)
（内ホテル・レストラン）	(320)	(378)	(475)	(591)	(719)
運 輸 ・ 通 信	1,441	1,643	1,925	2,220	2,536
金融・保健・不動産	2,120	2,263	2,409	2,603	2,846
政 府 部 門	1,413	1,504	1,600	2,288	2,573
その他のサービス	703	748	816	903	999
国 内 総 生 産 （現行市場価格）	15,247	17,892	21,482	25,466	28,896
国内総生産の伸び率 （現行市場価格）	13.3	17.3	20.1	18.5	13.5

（モリシアス中央統計局資料）

輸 入 動 向

(単位：百万モーリシャスルピー)

	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年
輸入総額 (c.i.f.)	6,493	8,119	9,199	13,042	17,247
食 料	1,267	1,346	1,162	1,471	1,746
酒・たばこ	26	26	34	57	66
原 材 料	296	395	366	408	523
鉱物性燃料	1,076	1,145	706	976	1,009
動・植物油	230	262	159	147	164
化学製品	456	554	598	630	1,063
加 工 品	1,945	2,646	3,630	5,211	6,130
機械・車両	750	1,114	1,563	2,886	5,126
雑 貨	424	524	732	1,040	1,362
雑 収 引	5	6	6	14	37

(出所：モーリシャス関税・物品税局資料)

輸 出 動 向

(単位：百万モーリシャスルピー)

	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年
輸出総計 (f.o.b.)	5,179	6,644	9,063	11,497	13,454
砂 糖	2,523	2,867	3,553	4,326	4,449
糖 み つ	62	69	90	61	92
茶	249	176	104	90	86
E P Z	2,151	3,272	4,951	6,567	8,176
そ の 他	63	127	220	269	404
再 輸 出 品	113	111	145	162	245

(出所：モーリシャス中央統計局資料)

主要貿易相手国

(百万ドル)

	輸 出					輸 入				
	1983年	1984年	1985年	1986年	1987年	1983年	1984年	1985年	1986年	1987年
米 国	30.35	46.08	64.94	103.35	139.82	12.97	11.14	14.59	12.09	28.71
カ ナ ダ	5.93	7.58	5.21	12.28	20.84	0.39	0.44	0.30	0.20	0.88
オーストリア	1.01	1.33	2.17	2.55	2.38	20.74	19.64	22.70	19.16	23.07
ニュージーランド	2.29	0.16	0.02	0.24	3.49	12.20	14.19	15.34	15.87	17.24
日 本	0.08	0.29	0.43	0.13	1.47	21.30	29.18	31.39	47.38	85.77
ベルギー・ルク センブルグ	5.86	5.32	7.29	13.32	16.06	4.83	10.73	8.48	11.17	12.83
フ ラ ン ス	86.78	64.54	90.30	156.76	221.25	51.98	54.86	65.39	93.00	151.53
西 独	14.00	19.27	27.72	43.42	68.92	17.99	19.51	24.15	39.45	53.26
イ タ リ ア	6.43	9.71	14.00	15.49	23.45	17.76	13.80	17.41	24.81	31.63
オ ラ ン ダ	4.60	5.29	4.89	11.20	12.36	4.43	3.44	4.58	6.85	9.60
英 国	184.96	187.51	187.54	242.18	246.09	38.28	37.27	41.77	50.99	80.32
中 国	0.01	0.19	-	-	-	20.02	27.57	28.38	33.21	24.38
香 港	1.25	1.96	3.79	4.78	5.47	7.31	18.20	23.94	46.55	113.86
イ ン ド	0.16	0.13	0.48	2.58	2.83	10.44	11.57	15.94	20.88	22.97
シンガポール	0.24	0.01	0.20	0.30	0.47	7.00	7.97	8.00	13.71	52.61

(出所: IMF "Direction of Trade Statistics" 1988年版)